



「なぜ」から始まる 科学的思考文化の定着 (平成30年度重点努力目標)

西条高校は、平成30年度から5年間、文部科学省が指定するSSH（スーパーサイエンスハイスクール）に選ばれました。「なぜ」から始まる科学的思考文化の定着を平成30年度の重点努力目標として教育活動を行っています。



防災基礎講座 1.2

5月8日(火)10日(木) 西条市役所危機管理課長 森本素史氏をお招きして「西条市の防災～死ぬな・逃げろ・助けろ～」をテーマに防災に関する基礎講座を開催しました。

1回目の講座では、南海トラフ地震での西条市における被害想定について詳しく教えていただきました。西条市では、震度6強津波の被害も甚大であり、浸水や液状化現象が広範囲で発生すると予測されているそうです。実際に、東日本大震災や阪神淡路大震災での揺れを映像で見せていただき、地震の恐ろしさを改めて感じました。

■ 防災のテーマ あなたは、何にする？

西条市の防災について考えるとき、あなたは、何をテーマにしますか？の問いに、グループで話し合い、発表しました。

「自分の身を守る」

まずは自分の安全が第一

「避難所での集団生活の在り方について」

災害から生き延びた後の生活が大切

「外国の方など、全ての人にやさしい防災」

外国の方が、病院の表示で困っている姿を見かけたことがきっかけ

「災害に対する準備について」

災害はいつ起こるかわからないので、今すぐ準備する必要がある

■ うちぬきの水は、災害時 使えるの？



2回目の講座は、グループでの話し合いを中心に行いました。その後、話し合いの中で感じた疑問を、講師の森本氏に質問。その質問内容を紹介します。

- ・西条のうちぬきの水は、災害時には使えるのだろうか。
- ・被害想定は冬の18時を想定しているが、夏場の被害はどうなるのだろうか。
- ・道路が使えない状況が予想されるが、歩いて避難するのが一番なのか。
- ・火災の発生原因は？ 火災を防ぐにはどうすればよいのか。



「自助」から「共助」へ (森本氏より)

家族会議を開いて集合場所の相談をし、持ち出し袋の準備を行うことは「自助」にあたります。みんなで助け合って避難することや、高齢者への配慮、避難所での生活について考えることは「共助」にあたります。高校生のみなさんには、「自助」から「共助」への意識を高めてもらいたいです。

防災基礎講座 3

「リスク・コミュニケーションと災害シミュレータによる地域防災の向上」

講師：愛媛大学社会共創学部環境デザイン学科 准教授 二神 透氏

5月24日(木)、第3回の防災基礎講座を開催。防災計画においては、国が方針を決めるトップダウンの形から、地域住民が地域に合わせた防災計画を立てるボトムアップの形へと移行しているそうです。そのためにも、防災意識の普及啓発と人材育成のための活動が必須であると話されていました。

クロスロード ゲーム

災害時の様々な状況を自分の事としてとらえ、判断力を養うことを目的に、以下の質問に対してグループで話し合いました。あなたは、どうします？

- Q.1 家族同然の大型犬と一緒に避難所に連れて行く？
- Q.2 激しい雨が降っており、洪水の危険があるとして、避難勧告が発令されたことを防災無線で知った。時間は深夜の0時。妻や65歳の母、小学生の息子とともに避難所に避難する？
- Q.3 あなたは町の食料担当の職員です。地震から半日経過し、避難所に避難している300人の町民が空腹を訴えている。しかし、現時点で確保できた食糧は200食で以降の見通しは現時点ではない。食料を配る？

「なぜ」 vol.1 ピカソへの「なぜ」



左の絵は、ピカソが描いた「ドラ・マールの肖像」の顔の部分です。変ですね。「なぜ」こんな顔に描いてしまったの？

人の顔の特徴は、いろいろな角度から見る方が、よく伝わる。前からの顔と横からの顔を、一つの画面の中に描こうとして、こんな表現方法を生み出したのです。

「ドラ・マールの肖像」部分
作者：パブロ・ピカソ

